

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第47回放送の概要 (2012年3月31日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM)「7つ 8つ 9つ とう といち」でおなじみの「十一の奈良漬」は、「灘の生一本」の酒粕に漬け込み仕上げた自慢の味です。食事の締めくくりに、サンドウィッチや巻寿司などにも御愛用ください。今日は、「十一の奈良漬」黒田食品さまの御協力を頂きました。

1. オープニング

なかちゃんは先週の放送から怪我からの復帰をしていますが、まだ痛みはあるようです。自分の不注意の怪我であり、もう少し年をとってからの場合は大変なことになるよ、という警告と考えています。明日はエープリルフールです。世界では大がかりな報道が毎年行われ、ビッグベンがデジタル化されるとか、東京新聞が東京タワーが傾き、原因は足元のおならです、など楽しいものがありました。

2. ゲストコーナー：池亀みどりさん、池亀はるみさん、有吉真紀さん

本日のゲストの池亀みどりさんは、兵庫高校で国語の先生をされていたことがあるという御縁でお越しいただくことになり、娘さんのはるみさんがインドで活躍されていることを知り、また最近帰国されたのではるみさんにもご出演いただくようになった。また有吉さんは、たかとりコミュニティセンター(TCC)にあるアジア女性自立プロジェクト(AWEP)のスタッフとして活動され、またFMわいわいにも出演され、池亀はるみさんの大学(岡山県立大学)の先輩でもあります。

(前半は池亀みどりさんにお話を伺います。)

最初は夜間の神戸工業高校、次に夢野台高校に6年間、兵庫高校に14年間そして須磨東高校に勤め、その後退職し、今は退職2年後である。兵庫に転勤した時に、夢野台と違い兵庫は極めて自由だと思った。理由は兵庫には規則(校則)がないということである。夢野台は生徒に注意することが多く、先生と生徒は敵対関係にあった。びっくりしたのは3時限か4時限の時、同僚の先生と食堂に行った時、生徒がうどんを食べていたのでびっくりした。生徒に注意しなければと思ったが、同僚の先生は涼しい顔をしていた。現在の兵庫高校は食堂が遠いので在校生も中々使わないが、当時は玄関のすぐ傍で行きやすかった。

同僚の国語の先生は、明石から通学し、息子二人は明石付属に行っていた。兵庫の教師になり、ラグビー部の顧問をしていたが、生徒が自由でラグビーも楽しいので兵庫を気に入り、息子を兵庫に入学させるため、わざわざ明石の家を売り、兵庫駅近くに転居し、息子二人を優秀な成績で兵庫に入学させた。「孟父三遷」と言っていた。当時は男子の方が圧倒的に多く、理系の男子クラスに授業に行くと、体育の後で裸の生徒がいるので目のやり場に困り、早く服を着なさいと言っていた。このように自由な雰囲気

気があったので「生徒は天国、先生は地獄」と先生の間で言っていた。

震災時は名谷に住んでいたのが水道は止まったが被災は殆どなかった。地下鉄が止まったので、学校には3日目に再開した地下鉄で板宿まで行き、そこから学校まで歩いて行った。授業が出来ないので、はるみさんを連れて行き、物資の配給やトイレ掃除などのボランティアをしていた。はるみさんは、名谷は地震の被害が少なかったのが、板宿から兵庫に歩いて行く途中の被害の実態に大変驚いたことを覚えている。

2006年に、人間ドックで初期であったが乳がんが見つかり、10月に手術をし、1カ月後から抗がん剤治療を4クール行った。通常ホルモン治療をするが、池亀さんはホルモン治療が出来ないタイプの癌であったので、どうすべきかを考えていた時、京都を中心にボランティア活動をしていた「がん患者の会 ASUKA」の代表と副代表に知り合いになった。二人はとても元気で、特に副代表はがんが転移していたがそんな風には見えなかったのが、その後ろ姿に惹かれ、この人についていこうと思って即入会した。入会前の抗がん剤治療をしている時は鬱状態で、死んだ方がましとったりしていた。その状態を傍で見ていたはるみさんは、病院に連れて行かなければと思った。

ASUKAは「意識の変容が治療への鍵」をメインの考え方にしている。がんになると免疫力が低下し、気持ちも体も酷使してハードな生き方になっている。ゆとりがなくなっているということに気づいて、リラックスした自然な生き方に変えて行くことで、頑張るのではなく、楽しく生きましょうを目的に活動している。他のがん患者の会は、普通は治療の内容や苦しみを語ることが多いと思うが、ASUKAは笑いが絶えない患者会である。最初落ち込んで下を向いていた人が、顔が上がり明るい顔になって元気になってくる。がんを持っていながら気にしなくなり、変わってくる。日本一明るい患者会と呼んでいる。ASUKAはがん患者会ではなく、ただのおばさんが楽しく集まっている会と同じである。ある病院の院長先生が、医者立場から見ると、患者さんに対する接し方に医者側の問題があると提唱されている。ホリスティック医学とは、対処療法である西洋医療とは違い、患者の全体、バランスを見て、民間医療、漢方、アロマセラピー、ヨガ、リフレックスソロジー等含めて対処する医学である。

術後の検査は池亀さんは3年間ほどは行ったが、放射線検査で被曝する方が問題と思ひ、自分の事は自分でわかるので検査していない。末期と言われながら10年以上生きながらえている方もおられる。自分が自分の医者になると言っている。

3. ミュージック：イーグルス「Take it Easy」

この曲は男性が追い詰められてうっとうしいという歌詞であるが、そうではなく、池亀みどりさんのお話を聞いて、「Take it Easy」は、じゃあね、いいやん、ええやんかという感じで、肩を張らずに行きましょう。ヨガの呼吸法では、下はしっかり大地のエネルギーを吸い上げ、肩は風に揺らげるように力を落として行います。深く考えることも必要ですが、時々「Take it Easy」でいきましょう。

4. ゲストコーナー(2):

(後半は池亀はるみさんにお話を伺います。)

大学、大学院で染色・デザインの勉強をしている時、羊の毛を使った作品(オブジェ)を作っていた。大学の場所は岡山の田んぼのど真ん中にあり、受験で初めて大学に行った時、手動で扉を開ける列車にびっくりし、初めはその場所になじめなかった。しかし行く程に自然の良さに癒され、作品を自然素材で作るようになった。しかし、お金も時間もエネルギーも費やして作品をつくり、展覧会が終わってしまったら、たまっていく作品をみていくうちに、なんだかごみを作っているような気持ちになり、自分の思っていること、やっていることをもっと違う形で循環させたいと思ひ、大学の友人の誘いで自然農法の農業に興味を持ちだした。また当時作品を作れずスランプになっていた時、友人からインドで紡ぎを教えないかとの誘いがあり、羊の毛を卸している会社の人からインドの染色ツアーをしていたので参加した。

インド北西部の首都デリーからバスで6時間ほどのタール砂漠にあるジャイプールに行った。この地域は手工芸品が盛んで、染色やクラフト物の職人さんが多い。織や染めを見たり、木のハンコを使って押して作るインド更紗を体験したりした。ツアーとは別に一人残り、2時間ほどジャイプールから離れた小さな村パレイの紙粘土作家（インドのパルプと土を混ぜて家具を作る作家）を訪ねた。環境に帰る物、自然に帰る物を考えていたので、滞在するならこのような場所が良い、自分も楽かなと考え、2週間滞在した（7年前）。当時のその地域は9時には電気がとまり、ランプで過ごしたり、薪でお湯を沸かしてくれたりした。農的な暮らしが好きで、村の人とも壁がなく、親切で、とれたての牛乳を運んでくれた。自家製の物で生活するインドでの思い出が強く残っていたので、毎年とりつかれたかのようにインドに帰っていた。滞在期間は1.5カ月、2週間、今の仕事をしようと思った時には半年、今回は3カ月の滞在であった。



インドはインフラが良くなってきており、お金を持っている人も増え、若い人はサリーを着る人も少なくなっている。インドの伝統的な更紗や靴の職人はいるが仕事が減ってきている。職人さんと一緒に仕事をしたいと思い、インド更紗のカバン、レザーのハンドルを使ったバッグなどの商品を少しずつ作った。このようなやり方はフェアトレードということもあるが、この言葉を使うことによる縛りもあると思われるので使用していない。支援と言う意味合いではなく、単純に村の職人さんと一緒に物を作っているという感覚である。



初めのうちはインドの良い面ばかり見えていたが、半年間も滞ると電気が限られていること、インド人は明るくてポジティブであるが、いろんな人と関わっていくと、みんなそれぞれ色々な悩みを抱えている。職人さんの家族背景が見えてくると、きつく言えないとか、異国にいるため体調を崩したりするので、これからはもう少し気楽に行ける方法を考えて行きたい。何も知らない中で始めてしまったので、今は大変なことを始めたと思っているが、インドでも日本でもサポートしてくれる人により廻って行けるようになってきているので続けて行きたいと思っています。日本人とインド人は仕事に対する姿勢が違うので、違うことを前提に、こちらの立場の言うべきところは言い、譲歩すべきところはお互いに考えて譲歩していくことが必要。インドは家族を大切にしたり、学ぶべきことがたくさんあり、機械的に進めたりしないところやリズムがすきなので、うまくかみ合うようにやっていけたらと思っている。自分が思うだけでは相手に伝わっていないことがあるので、自分の思いを相手にきっちり伝えることがコミュニケーションのしどころである。出来上がり品を見た時、こうとられたかと思うことがある。日本人には伝わるのがインド人には伝わらないことがある。意図と違ったものが出来た時は、発想を変え、この品物をどのように使うかを考えるようにしている。インドで学んだことは、ジャイプールの人は砂漠のため夏は50度、冬はマイナスになり、パキスタンと戦争が多かったりしたこともあり、とてもアグレッシブであることである。そうしないと生きていけないと思った。



有吉さんの感想は、AWEFは震災の前から活動を始めており、取引や出来あがってきた品物について今も同じ悩みがあり、池亀さんは別の地域で同じ悩みをしているので、続けることが大事で頑張してほしいと思う。

今はインドの職人さんにやる気が出てきている。今回のインド滞在時、レーザー職人の目がすごく変わっていたが、それは池亀さんの仕事が楽しかったからと言われた。プリント職人にずっとついて見ていたが、時間をきっちり守っていた。職人の奥さんは、結婚すると自由に仕事に行けないので、日本から女性一人でインドに来て頑張っているのを見て、奥さんも仕事に対し元気が出たと言っていたそうです。共感できる人と一緒にオーダーを出し、職人さんがその仕事で生活が成り立つようになればと思う。今までは個人でやってきたが、これからは興味を持つ人と繋がってやって行くことになっている。

母親の立場としては、娘はよくやっていると思う。好きなようにしてもよいが、体は強くないので十分注意してほしい。

5. なかちゃんの「こぼれた話こぼれなかった話」：義経の鶴越の逆落し

寿永3年（1184年）2月4日、後白河法皇から平家追討の命を受けた源氏軍は、源範頼が率いる大手軍（主力部隊）が山陽道（西国街道）を、源義経率いる搦手（からめて）軍が丹波路を、二手に分かれて摂津国福原・大輪田泊の平家軍の本営に向けて進軍。

源範頼の大手軍は、福原東の生田森の陣に、丹波へ回った源義経の搦手軍は、三草山（加東市）で平家軍を打ち破り、一の谷の陣に攻撃を仕掛けました。主力と分かれたもう一方の軍（部隊）は、淡河・衝原・藍那と回り、地元豪族の鷲尾兄弟の道案内を受けて鶴越方面へ秘かに軍を進めました。

鶴越の逆落しのエピソードは、現在も論争になっている、現在の一の谷の背後の鉢伏山・鉄拐山の崖か、一の谷から約10km弱東に離れた鶴越のどこかの崖か、はたまた本当にあったのでしょうか。種々の疑問点を整理し、当時の平家の陣構え、進軍ルートの地形などを考慮して、義経軍の動きを考えてみたい。

平家の陣構え

平家軍は、福原・大輪田泊の本営に加えて、山陽道の生田森陣と西方の一の谷陣に主力軍を配置し、山手方面からの攻撃に備えて、鶴越方面の西の谷側には平盛俊らが守る明泉寺（古明泉寺）の陣を、東の谷筋の烏原道・平野道に対しては平教経らが山の手陣（氷室神社・会下山）を構えて用意していたこと。万源氏が攻めてくれば、大輪田泊に瀬戸内海に避難・逃走できるように平家の軍船が停泊していたこと。

崖を逆落しする危険性

陣背後または陣の近くで急峻な崖を駆け降りるのが敵に発見されると、槍袞（やりぶすま）を構えられ、矢を多数打ちかけられ、あるいは焼き討ちにあたりして、戦闘する間も無く全滅する可能性は非常に大であること。

後白河法皇の主命

後白河法皇は源氏軍に平家追討を命じた内には、安徳天皇の保護と天皇が保持する「三種の神器」奪還が主命であったこと。

陽動作戦

東の生田森と西の一の谷への寄せ手を主体に陽動作戦とし、注意を逸らされて油断していた山の手から一直線に「三種の神器」がある大輪田泊を最短距離で急襲するのが最善策と考えられること。

進軍ルートの選択

急襲を成功させるためには、平家軍の陣や物見の歩哨などから発見されないように、平家の明泉寺の陣や山の手陣から見通せないルートを選んだものと考えられる。

鶴越の急襲ルート

以上の条件を勘案して、義経たちは、鶴越を通して山の手ルートを選んだであろう。鶴越の高尾山から、神戸市鶴越墓園内（現在）を通り、明泉寺の陣から隠れる様に西神戸道路トンネル（現在）の上の山の稜線伝いに展望台（現在）のある尾根から、平教経らが待ち構える氷室・会下山の陣の西側の脇を、県立夢野台高校（現在）横のなだらかな斜面を、古来大和朝廷の武器庫があったと伝わる室内（むろうち）を一気に駆け下りて、造成予定であった「和田京」の地を南下、大輪田泊を急襲したと思われる。

一の谷は福原京だ

京都から神戸へ東側から生田森を通して入って来ると、山が海に迫っている所が現れる。右に見える山側に諏訪山・大倉山がせり出し、左に見える海側（現在の JR 神戸駅南）との狭隘な部分を抜けると福原京がある。この福原京の南に大輪田泊が隣接する。この地に立って山側を見ると、東の大倉山と西の会下山とに挟まれた烏原氷室・平野の谷筋が一望できる。神戸に入って一番目に現れる谷筋がここで、まさに「一の谷」であったとするのが妥当である。

義経の鶴越の逆落しは、実戦上非常に危険な作戦であり、現在の一の谷（鉢伏山・鉄拐山）ではロケーションを見ると無理があつて、逆落しは武勇を示す単なる物語であつて、実戦ではやらなかったと思われる。義経らは、鶴越を通る山の手ルートを探り、逆落しの様な無理をせず、平家陣から発見され難い稜線伝いに大輪田泊を一直線に急襲したと考えるのが自然であろう。

6. ゆうかり大好きコアラさんの地域瓦版

兵庫津遺跡を発掘しようという体験発掘調査が4月3日（火）～5月19日（土）の間、毎週火、木、土曜日、1日2回、1回15名限定で歴史館の西側の兵庫津遺跡で行われます。申込はFAXで、小中学生500円、高校生以上1000円です。KOBEDe清盛のホームページをご覧ください。

アースデー神戸2012が5月4、5日に三宮のみなのもり公園（神戸震災復興記念公園）で開催されます。地球の事を考える飲食や販売の店が100店舗ほどが出店します。池亀さんも有吉さんのAWEPも出店します。子供向けイベントやアースデーライブもあります。池亀さんの会社はヒンズ一語でkachua（カチュア：亀）といい、友人と一緒に出店します。

7. 来週のゲスト

来月のゲストは環境緑地設計研究所の辻 信一さんにお越しいただきます。

以上

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com